

千刈狸の呟き

今年2011年3月11日の東日本大震災では、この秋田の地でも激しく揺れ、わが狸穴も大揺れに揺れて、驚いて穴から飛び出しました。ちなみに「狸穴」は「まみあな」と読みまして、東京都には地名が残っております。麻布狸穴町にはソ連大使館がありましたが、その後ソ連もロシアとなりそのロシア大使館は麻布狸穴町から麻布台二丁目へ町名変更し、狸穴町からは分かれてしまいました。残念。そういえば、「麻布狸穴 午前二時」(甘粕りり子著、講談社)という本もありました。

さて、震災の話に戻りますが、被災者の避難所での生活面・医療面の厳しい状況が、地震直後からメディアを通じて次々と送られてきました。お年寄りから小さな子供までの共同生活は、衛生状態の悪い中で感染症の発生が心配されましたが、やはりインフルエンザやノロウイルス感染症が多発する状況になりました。集団生活の中で結核の集団発生も心配しておりましたが、数名の患者さんの単発発生にとどまったようです。しかしながら、結核専門狸によると、むしろ秋以降の集団発生が心配だとか。結核は感染してから発症するまで多くは6カ月以上かかるので、春に発症した患者さんの周囲の方々がもし感染していると、秋頃から徐々に発症してくる可能性が危惧されるそうです。

結核に感染したか否かを調べる検査では最近ツ反ほとんど行われず、クオンティフェロン検査(QFT-TB)が主流となっております。それでも、感染してから2カ月経たないと陽性になりません。また、ツ反と異なりBCGに影響されず、感度・特異度が高くすぐれているものの、検査料がいささか高いのが欠点であります。もっとも、もし結核に感染した場合でもそのまま発症する人は一割程度で、高齢になり発症する人が一割程度、残りの方々は一生発症しないようで、感染したとしても大多数の方は結核菌を体内に持ったままで元気に過ごしているのが現状のようです。

2009年のビートたけしさんの結核のテレビコマーシャルで、「日本では、四人に一人が結核に感染している」というコメントにビックリされた方が多いでしょう。結核研究所の疫学情報センター

～ 震災と結核 ～

狸 穴 狸

によると、結核既感染者率推計では2000年は25.7%であったものが、2010年では20.4%へと減少傾向にあるようで安心しました。わが秋田県は罹患率が低い県で、人口10万人に対し11.4と下から5位であります(全国:19.0/10万(2009年)厚生労働省)。これから計算してお分かりのごとく、由利本荘市と仁賀保周辺等を合せこの地区では年間発症が約10人と計算されます。由利本荘地区で唯一結核病床を持つ日本海に臨む病院では結核病床が16床もあり、年間10人程度の発症では1日平均入院患者数3名前後で、すきま風吹く空床状態で大赤字に悩んでいるようであります。何しろ今の結核治療では、一日一回服用する抗結核薬により治療開始後一カ月程度で排菌が止まり外来治療へ移行できるため、入院期間は二カ月前後。その後外来治療と合せ治療期間6～9カ月のため、入院治療より外来治療のほうが長期なのであります。その院長はガラガラの結核病棟を回診後、日本海に沈む真っ赤な夕陽に赤字病床をだぶらせて、海に向かって毎日涙を流しているとのこと。

さて最近では、テレビでおなじみの芸能人が結核で入院治療され退院後、再び前の芸能活動に戻り受け入れられておりますが、一度結核を発症すると治療終了後でもなかなか高齢者施設等には受け入れてもらえませぬ。結核治療後の再発率5%以下、2010年で80歳の方の既感染率が73%、85歳では80.7%(疫学情報センター)。さて、どちらからの発症を心配すべきか。若い方ですと、2週間以上咳が続くとき結核を心配したほうがよいといわれておりますが、高齢者の場合、咳・痰よりも食欲低下・体重減少で発症することも多いようです。しかもQFT-TBがもともと陽性の高齢者が多くですし、なかなか早期に診断するのは難しいです。

さて、いろいろお話ししてきましたが、日も暮れてきたようです。本来狸は夜行性ですが、年とともに朝早く目が覚めてしまい夕飯を食べるとすぐ眠くなります。もう、狸穴へ戻ります。それでは、お休みなさい。